



東北大学附属図書館報 木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

- 木這子(きぼこ)とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子(こけしぼうこ)-

目	次
○平山文庫について..... 1	○平成20年度目録システム地域講習会(図書 コース)開催.....22
○平山諦先生と平山文庫..... 2	○平成20年度目録システム地域講習会(図書 コース)を受講して.....23
○「平山文庫」..... 6	○『東北大学生のための情報探索の基礎知識』 基本編2008, 英語版2008を刊行.....24
○東北大学創立100周年記念 特別展「学都に息づく夏目漱石の精神 - 仙台 の「漱石文庫」から」開催報告..... 8	○平成19年度特別図書購入報告.....25
○漱石と読書.....11	○平成19年度参考図書購入報告.....26
○平成20年度新入生向け図書館オリエンテ ーション等の開催.....19	○附属図書館商議会商議員名簿.....27
○平成20年度図書館主催講習会.....20	○第55回国立大学図書館協会総会の開催につ いて.....28
○研究室向け個別図書館ガイダンス開催.....20	○会 議.....28
○2008年日・EU フレンドシップウィークイベ ント:「ユーロ」展開催.....21	○人事異動.....29
	○編集後記.....30

平山文庫について

「平山文庫」は、元本学教授平山諦博士が集められた和算関係の資料群です。『塵劫記』『算元記』『新刊算法記』『算俎』『算学淵底記』や『管窺輯要』『幾何原本』及び『九数略』ほか多数の日本や中国及び朝鮮の貴重な数学書、暦算書が揃っています。平山先生に師事され今回の寄贈に仲介の労をとっていただいた鈴木武雄氏

(静岡県在住, 和算史研究家)と平山先生が静岡へ引越しされて以来, 文庫を守られてきたご長女の鈴木絢子氏から平山先生と平山文庫, その紹介とまつわる思い出話などの投稿を頂きました。巻頭にご紹介して皆様のご活用を祈念します。

ひらやまあきら
平山 諦先生と平山文庫

鈴木 武 雄

1. 平山諦先生^(註1)と平山文庫の成立

元東北大学理学部数学科教授故平山諦先生(1904 - 1998)は、明治37年(1904)8月13日千葉県成田で誕生されました。昭和2年(1927)旧制第二高等学校より東北帝国大学理学部数学科へ入学され、林鶴一教授、藤原松三郎教授などから数学を学びました。卒業研究は林鶴一教授について和算史の研究をされました。東北数学雑誌を見ますと、東北大学では開学以来林鶴一教授を中心として和算史研究が行われていました。もちろん数学教室における主たる研究内容は、純粋数学及び応用数学の研究でしたが、数学史(和算史)についても大きな関心を寄せていました^(註2)。昭和4年(1929)林教授は和算史研究に専念するために退職をされ講師として講義をされました。その後昭和10年(1935)10月4日松江で林教授が急逝されるまで平山先生はしばしば林教授の御自宅を訪ねられたとのことでした。その際「手ぶらで訪問するわけにはいかないので、何かお土産(研究成果)を持っていかないと・・・」とおっしゃっていました。昭和5年(1930)平山先生は東北大学を卒業され、引き続き研究室に残り和算史の研究をされました。転機になったのは林鶴一教授の急逝です。学問上でも私的にもまさに師事していた林鶴一教授を失った衝撃はたいへんなものであったと思われます。それもあって『林鶴一和算研究集録』(東京開成館,1935年)上巻1102頁、下巻1038頁を実質的に編集することになったのです(*筆者は平山先生より林鶴一教授の逸話を「林先生は・・・」とよく聞きました。また、封筒を裏返して再利用されるのも林鶴一先生直伝とのこと - 平山先生の御奥様和子さんの言。)

また、林教授の急逝は藤原松三郎教授^(註3)に一大決心をさせることになったのです。藤原教授は東北大学理学部開学以来、林教授とお二

人の教授として数学教室を創り上げてきた方です。その藤原教授がそれまでの純粋数学及び応用数学研究から大転換し和算史研究に専念することになったのです。藤原教授は平山先生をある意味で「和算史研究の先達」かつ「助手的」存在として接せられたようです。藤原教授の論文や随筆には平山先生のごことが随所に書かれていてその様子が分かります^(註3)。理学部(藤原教授)は東北大学に和算研究所設立を申請され(*申請順位第二位でしたが、実現されませんでした。),昭和16年(1941)平山先生を東北大学理学部数学科講師として任用します。藤原教授と平山先生との信頼の証こそ大著『明治前日本数学史』全5巻(岩波書店,1955年~59年)です。この『明治前日本数学史』は昭和17年(1942)に執筆が開始され、昭和19年(1943)末に完了されています。『明治前日本数学史』は、現在でも和算史研究のために最高最大の研究書です。その大著が第二次世界大戦下で非常に難渋を極めた時代に、しかもたった2年間で完成しているのは驚くべきことです。この藤原教授の原稿を平山先生は整理清書されたのです。昭和20年(1945)7月10日アメリカ軍による仙台大空襲により大きな被害を受けました。藤原教授の御自宅も被災され、平山先生の御家族4人も焼夷弾で焼け落ちる仙台の街を逃げまどったのです。(*この時の状況は平山先生の御長男平山智啓さんと御長女鈴木絢子さんがお書きになるといいます。)幸いなことに東北大学理学部和算図書室は戦災を免れたのです。『明治前日本数学史』の原稿も藤原教授の御家族と平山先生により死守されました。平山先生の蔵書もなんとか助かりました。この蔵書が今度東北大学附属図書館へ寄贈された「平山文庫」になったのです。

東北大学附属図書館にはすでにお二人の恩師

林鶴一教授による「林文庫」「林集書」と藤原松三郎教授による「藤原文庫」「藤原集書」、さらに大蔵書家で大知識人狩野亨吉^(註4)による10万冊に及ぶ「狩野文庫」、長谷川弘の弟子であった岡本則録^(註5)による貴重算書が多数ある「岡本文庫」と日本で最大級の和算史研究の蔵書が揃っています。ここにさらに「平山文庫」が加わることになり、何よりも故平山先生はたいへん喜んで下さると思います。

平山先生の蔵書を東北大学へ寄贈することになったきっかけは、東北大学附属図書館の小田忠雄館長のころです。土倉保名誉教授と小田館長とは同じ数学教室と言うこともあり親交されていて、そのとき平山先生の蔵書のことが話題になったようです。「平山先生の蔵書を東北大学へ寄贈して頂けないか」と土倉先生より私にそのことのお話がありました。そのころ平山先生は90歳を越えられていましたが、お話ができましたのでうかがったところ了承されました。もちろん御家族も了承されましたが、和算の一次史料にしてもどれほど存在しているのか私も知りませんでした。その後平成10年(1998)6月22日平山先生は93歳で御逝去されました。平成13年(2001)8月の休みから静岡県磐田郡豊田町(現磐田市)にある平山先生の御自宅の蔵書の仮目録を作成する必要にせまられ、早朝より夕方遅くまでかかってノートにしました。とても1日で調べノートできるような質と量ではありませんでした。わたくし自身公務多忙で休日をつかい何日もかかりましたが、不完全なものでした。それでも平山先生の全貌を把握することができました。その後平成18年(2006)になり平山先生の御遺族より、平山先生の蔵書を正式に東北大学へ寄贈することの相談がありました。同年6月18日早速私は東北大学附属図書館長宛手紙を書き、快諾され平山文庫が東北大学へ収まることになりました。また、平成19年(2007)7月東北大学附属図書館では多忙な中ご苦勞をされ、平山蔵書の仮目録を作成されまして、不明な点について私へも相談がありました。平成20年(2008)3月12日付けで正式に『平山文庫目

録』が立派に完成されました。平山諦先生も満足されたいへんお喜び下さり安心されると思います。御遺族もほっとされたと思います。いわば「収まるべき所に収まった」のです。

2. 平山文庫の内容と特徴

『平山文庫目録』は346頁で1255冊が記載されています。平山文庫の内容は和算書、日本の曆書、貴重和算書の写本、中国の曆算書及び少数の朝鮮曆算書から成っています。平山先生がこれらの和算書など一次史料を購入されたのは、ほとんどが第二次世界大戦前のことのです。和算書のなかには古書店の値札が付いているものがありました。和算書ではありませんが『長崎先民伝』二冊(廬千里著 *長崎洋学史研究の原史料)には「十二円 大屋書房」という値札があり、小学校教員の初任給が20円余と言う時代を考えますと相当高額です。そう考えますと、購入のときでも平山文庫全体は相当高額であったはずで、(もちろん現在古書店より購入するとすれば相当高額です。しかし、ほとんどが貴重書であり稀にしか古書目録に掲載されないでしょうけれども……)幸いなことに平山先生の御実家では御両親の深い愛情と御理解があり御援助をされ、和算書など一次史料の購入を随分されたとうかがっています。(*昭和13年荒木貞夫陸軍大将が文部大臣になり科学振興を企画しました。その組織は「科学振興調査会」といい、現在までつながる「科学研究費補助金」制度が作られました。このころから戦時体制になり和算史研究も国威発揚のために科学研究費補助金の対象となりました。東北大学でも和算書の購入がなされたと思われまます。)

平山文庫の特長は、和算書よりも日本と中国の曆算書が多いことです。『篋篋〇〇』『〇〇篋篋』『縮象符天曆書』などという史料も数種類あります。これも曆書の一つです。『管窺輯要』は『天文大成管窺輯要』といい関孝和が研究したことで知られ、平山先生も大切にしていたものです。16世紀末より中国へ渡来したイエズス

会宣教師マテオ・リッチ（漢名：利瑪竇）と徐光啓による漢訳『幾何原本』も4種類も揃っています。また、日本学士院所蔵の貴重書や水戸彰考館所蔵の貴重書を写本されていることです。貴重書『蛮暦』などは戦災で焼失されていると思います。平山先生御自身により写されたものではなく、依頼して非常に丁寧に写本されたものです。（*平山先生の筆跡は特徴があり、すぐ判明します。）

3. 代表的な暦算書の概略

・日本暦算書の部

(1) 『歳周考』(上) 写本, 大1冊.

この本は建部賢弘著です。戦前、水戸彰考館に所蔵されていたものを平山先生が写本されたものです。ところで水戸彰考館所蔵本は焼失しているものが多く、その意味で貴重な資料と考えられます。

(2) 『蛮暦』 写本 1冊.

本書は水戸彰考館に所蔵していたものですが、原本は焼失していると思われます。江戸時代初期における西洋暦の様子が分かる非常に貴重なものです。平山先生は孔版印刷で公表されています。

(3) 『亀井抄』(中下合本) 刊本.

明暦3年刊行で『亀井記』『新編諸算記』と同年刊です。初期和算史、特に佐渡の和算史(百川治兵衛)との関連も重要です。林鶴一先生が所蔵していたものかもしれません。

(4) 『円理弧背術』 写本, 1冊.

本書は、東北大学所蔵本である建部賢弘『円理弧背術』を本多利明が写本し、その写本と考えられますが、1丁異なります。他に写本として日本学士院にはあります。比較研究が必要です。

(5) 『算法算俎』 寛文3年刊本.

本書は他所でも所蔵していますが、貴重書です。村松茂清著で円周率を関解入りで数学的に最初に解説し和算の発展を記念する算書です。村松茂清の養子と子供は赤穂四十七士となり有名になりました。

(6) 『闕疑抄答術』 写本.

本書は、もともと内閣文庫に唯一所蔵している貴重本を帝国学士院が写本したものを、平山先生が依頼して非常に丁寧に写本させたものです。本書は磯村吉徳『算法闕疑抄』の遺題へ関孝和が解答を与えたものです。その意味で関孝和の研究において非常に重要なものです。

(7) 『算元記』 中巻, 明暦3年刊本.

藤岡茂之による和算書です。本書は佐渡の百川治兵衛『諸勘分物』第2巻にある図と同じ図があります。その影響が刊本として非常に重要です。初期和算書としても貴重です。

(8) 『算学淵底記』(内題: 『算法勿憚改』) 刊本.

本書は、東北大学及び日本学士院などで所蔵していますが、日本ではじめて3次方程式を逐次近似法で解いた貴重書です。他に下平和夫所蔵本、下浦康邦所蔵本などしかありません。

(9) 『円方四巻記』 明暦3年刊本. 1巻.

初期和算家初坂重春による和算書の一つです。残存は僅少です。

(10) 『孤率』 写本.

本書は、建部賢弘著で、会田安明に伝えられたもの。もともと帝国学士院所蔵のものを平山先生が写本させたものです。

(11) 『算法一起』 刊本.

初期(延宝年間)和算書です。

(12) 『新刊算法起』 下巻.(田原嘉明著) 刊本. 初期和算書で貴重書です.

(13) 『新編塵劫記』 寛永9年版. 寛永11年版. 寛永18年版.

初期和算書で貴重書です。

(14) 『法氏転規草』 写本.

遊歴算家として知られた法道寺善編の算書で転写に歴史的価値あり。

(15) 『数学乗除』 下巻. 刊本.

本書は、古郡彦左衛門(池田昌意)による和算史上貴重書です。円周率 $355/113$ が書かれた最初の和算書です。日本学士院所蔵本は写本です。

(16) 『規矩元法』 彩色写本.

日本の測量術の祖である樋口権右衛門より金沢氏へと伝えられた南蛮流測量術の貴重書。他に静嘉堂文庫にしか所蔵されていない書物です。

(17) 『曆学正蒙』大1冊。万治元年刊の写本。

『参両録』で知られた初期和算家榎並和澄著による曆算書です。

(18) 『机前玉屑』2冊。写本。

帝國学士院囑託員遠藤利貞の識語がありません。

(19) 『求力論』1冊。写本。

天明四年志築忠次郎訳。東京大学所蔵本を昭和15年写本したものです。

(20) 多数の『筭篋』類、『運氣論』類。

これだけ多数の『筭篋』類、『運氣論』類の刊本揃いは少ないでしょう。特に、内田五観の書き入れ本『筭篋』は貴重です。

他の算書もよく調べれば、その貴重度が判明するでしょう。

・中国及び朝鮮曆算書の部

中国曆算書は、貴重書がほとんどです。ただ、光緒年間に復刻されたものは数があり、点検が必要です。判断する上で『東洋数学史への招待 - 藤原松三郎数学史論文集 - 』（東北大学出版会、2007年）は非常に参考になります。

(1) 『湛軒書』刊。7冊。

本書は朝鮮の著名な科学者洪大容による著です。

(2) 『九数略』刊。1冊。

朝鮮の数学書として著名なものです。

(3) 『幾何原本』

4種類ほど所蔵されています。マテオ・リッチと徐光啓による漢訳本で余りにも有名です。大本で立派なものです。

(4) 『天文大象賦』4冊。

(5) 『通雅』15冊。康熙年間の刊。

(6) 『御製欽若曆書』24冊。

(7) 『管窺輯要』26冊。

この天文大成管窺輯要は、関孝和が改暦のために研究したと言う意味でも重要です。

(8) 『乾象通鑑』13冊。

(9) 『黙思集算法』巻下。

燕京大学本よりの写本。朝鮮の算書として重要書。写本ですが貴重書です。

(10) 『堤防橋梁組立之図』写本。

これだけの素晴らしい写本は少ない。

(11) 『百中曆』

康熙年間の時憲曆はすくない。残存するものは光緒年間などのものが多い。

(12) 『坤輿図説』大2冊。

宣教師フェルベーストによる地理書。

(13) 『大清乾隆五十四年時憲書』

乾隆年間の時憲書は少ない。

(14) 『康熙永年曆法』

宣教師フェルベーストによる曆書。

(15) 『緝古算経校注』

東北大学所蔵本。中国唐の王孝通による古算書。

(16) 『交食表』刊本。

西洋曆法による日食月食についての曆書。

(17) 『崇禎曆書』刊本。

明朝における100冊余にも及ぶ西洋曆書。

(18) 『七政曆』刊本5冊。

朝鮮の曆算書。

(19) 『詳明算法』写本2冊。

中国明代（1373年）の安止齋何平子が著した算書。中国の曆書ですが、朝鮮における復刻版かもしれません。朝鮮曆算史上で重要書です。*中国及び朝鮮の曆算書について実物を記憶に基づいて記述しています。他の曆算書で貴重書があると思われませんが、直接比較検討しなくてはなりません。

「平山文庫」を調べたとき、意外に一般的な和算書などが少ないことに気がきました。平山先生が研究される上で、東北大学理学部数学科和算図書室が所蔵している和算書を二重に購入する必要はなかったことによることかもしれません。そのころほとんどの和算書は附属図書館ではなく平山先生が管理する和算図書室にありましたから、自由に活用できたからです。御遺

族にうかがったところでは、第二次世界大戦後に私蔵和算書の相当量を手放されたとも聞きました。従いまして、現在残された「平山文庫」は平山先生が戦後の研究対象の方向が読み取れます。すなわち、日本及び中国の暦算史が平山先生の研究目標であったと思われるのです。

註

[註. 1] 平山諦先生と和算史研究について、以前本学名誉教授土倉保先生が本誌「木道子: vol.24, no.3」へ『東北大学附属図書館の和算書をめぐって(故平山諦先生に捧ぐ)』として紹介されています。また、昨年2007年7月平山諦著『和算の歴史』が、ちくま学芸文庫の1冊として復刊され、その解説へ筆者が平山諦先生と和算史研究について書かせて頂いております。それらをご覧頂けましたら幸いです。また、『平山諦先生長壽記念文集』(私家版, 1996年)には詳細な年譜を作成しましたのでご覧下さい。

[註. 2] 東北大学理学部では科学概論が講義され、初代が著名な哲学者として知られるようになる田辺元講師でした。科学哲学を理学部で研究し講義されたのは日本の帝國大学では東北大学だけでした。それだけ数学教室にも数学史について高い関心がありました。

[註. 3] 藤原松三郎先生については『東洋数学史への招待 - 藤原松三郎数学史論文集 - 』(東北大学出版会, 2007年3月)をご覧下さい。本書の編集には東北大学理学部数学教室の全面的な御協力がありました。尚、2006年

8月京都大学数理解析研究所で筆者により「藤原松三郎先生と平山諦先生 - 時代に生き、時代と格闘し、遺したこと - 」と題して1時間ほど話をしました。2007年出版「京都大学数理解析研究所 講究録1546『数学史の研究』」に収録されています。

[註. 4] 狩野亨吉(1865 - 1943)は東京帝國大学数学科及び哲学科を卒業。34歳で第一高等学校校長、42歳で京都帝國大学文科大学初代学長就任。2年後には退職。その後隠者の如く生涯を送った。在野の大知識人として安藤昌益、本多利明を最初に発見発掘するなどその大蔵書は貴重書の宝庫でありました。大正元年(1912)より東北大学へ蔵書を納入し始める。参照: 青江舜次郎著『狩野亨吉の生涯』(中公文庫)

[註. 5] 岡本則録(1847 - 1931)各地の師範学校校長、陸軍教授、成城学校校長などを歴任。昭和7年『帝国学士院和算書目録』を作成。岡本は幕末有力和算集団を主宰した長谷川弘の門人でその貴重和算書4千冊を引き継いでいた。それを東北大学へ寄贈。参照: 『岡本則録』(編著者: 松岡元久・平山諦, 1980年私家版)には、「東北大学岡本文庫について」と題して平山先生による岡本文庫のおかれた状況と戦時下に和算書を死守した様子が活写されている。

(すずき たけお)

(静岡県菊川市在住・和算史研究家/昭和57年平山先生が静岡県へ転居されて以来師事)

「平山文庫」

鈴木 絢子

父が没してから、今年で10年を迎えます。この度は東北大学附属図書館のご好意により「平山諦文庫」として保存していただくことになり、父もきっと安心しているのではと思い感謝の気持ちでいっぱいでございます。

父を思い返す時、いつも沢山の本に囲まれて読書(研究? 勉強?)している父の姿なのです。父が古書を収集したのは、ほとんど戦前だったと思います。昭和12年に父と結婚した母は「お父さんと東京へ行くと神田の古本屋街ばか

り歩かされた・・・」とぼやいていました。

空襲が近づくといかにして、戦火から本を守ろうかと、頭を悩ましたようです。最終的には母の実家のある山形の田舎に疎開させることでした。しかし戦時下今のように宅急便があるわけでもなし、疎開もままならないものでした。

当時私達の家は仙台市堤通8番地の借家でした。県庁の北側200mほど行ったところだったと思います。そのころ父は片平丁の理学部数学教室の和算書庫を研究室として使い自分の蔵書もそこに置いてありました。結果的にはここは戦災を免れたのですが、父は自宅の方が安全と考え（東北帝國大學理学部数学教室）と書かれた大きな麻袋に本を詰め自宅に持ってきておりました。父は自宅の庭先にシャベルで汗をかきかき防空壕を掘っていました。講師をしていた旧制山形高等学校へ行くときには、母の実家へ麻袋で本を運ぶこともやっていました。当時、国民みんなが住所氏名血液型を書いた名札を着衣の胸に縫い付けておくことになっていましたが、父は付けていない。仙山線で銃撃を受けたら、「数学教室」と書いてある袋を背負っているの身許が分かるだろう、と母が言っておりました。

昭和20年7月10日未明の仙台空襲、私達兄妹は親にたたき起こされ綿の沢山に入った防空頭巾をかぶせられ、防空壕へ急ぎました。そのとき既に家の北側の曇りガラスを見たら美しいピンクに染まっていた。おそらく裏の家は焼夷弾の直撃を受け燃えていたのでしょう。私達兄妹7歳5歳のときでした。防空壕へ入って間もなく、「ここは危ない。逃げなさい。」と言う父の言葉にうながされ、防火用水で濡らされた頭巾を被り母に手を引かれ堤通を北へ逃げました。途中真っ赤に燃え上がった電柱が倒れてきたりしたのですが、幸いにも母の誘導がよかったのか、怪我をすることもありませんでした。たどり着いたところは旧制二高（現農学部）の校庭の西でした。

父は大分遅れてここにたどり着いたのです

が、後で聞いたところによると、本の入った麻袋と入り口近くには母の着物を防空壕にいれ蓋をして土をかぶせて来たそうです。旧制二高は父の母校 B29から落とされる焼夷弾で焼け崩れていく校舎をただ呆然と眺めていました。夜が明けると戦火もおさまっていました。近くの味噌・醤油やさんが、銀シャリの塩おむすびをみんなに振舞ってくれました。おいしかったこと、忘れることはできません。私達二人を味噌やさんの庭に残し父母は焼け跡に出かけていきました。

家は丸焼け、防空壕は母の着物は焼けているものの、麻袋の本は無事でした。ただし消火活動で水をかけられていたそうです。それを後に数学教室書庫の屋上で干したと聞いております。仙台空襲のあと2～3日青葉神社に泊めていただきました。やっと仙山線の汽車に乗り母の実家のある楯山駅に降り立ったのは3日後ぐらいだったと思います。曾祖母と新婚の叔父夫婦は涙を流し無事を喜んでくれました。母の実家は田舎とはいえ飛行場が近くにあったので、終戦まではちょいちょい防空壕に入る生活が続きました。

8月15日終戦の日みんなで玉音放送を聴くためラジオを囲んでいました。父は離れて一人手作りの鉱石ラジオをレシーバーで聴いていました。終戦と知ると父はにこにこ笑っていました。大事な本を守れた安堵の笑いだったと思います。戦後仙台と山形を行ったり来たり、疎開した本を担いで運んだり無理がたたってか、かなりひどい結核に罹って、昭和24年11月～27年5月まで入院生活をしました。父の生涯はいつも大好きな本に囲まれ守ってきたのではと思います。平山諦文庫をつくってくださった、図書館に感謝するとともに、活用してくださる方の現れます事を望みます。

（すずき あやこ 平山諦長女）

東北大学創立100周年記念

特別展「学都に息づく夏目漱石の精神 - 仙台の「漱石文庫」から」開催報告

東北大学創立100周年記念事業の一環として開催しました特別展「学都に息づく夏目漱石の精神 - 仙台の「漱石文庫」から」(会場：仙台文学館)は、多くの来場者に恵まれ、盛況裡に終了することができました。

本展は、「漱石の生涯」「漱石山房」「漱石の作品世界」「漱石の精神を仙台に」の4部から構成され、前半では、夏目漱石の生涯や作品を端的に紹介し、続く後半では、漱石の薫陶を受け、漱石の精神を深く学んだ小宮豊隆や阿部次郎らを取り上げ、彼らが東北大学の歴史に刻んだ足跡を辿りました。

総展示資料約300点のうち、本館が所蔵する「漱石文庫」からは130点あまりを展示し、平成19年に開催した「文豪・夏目漱石 - そのこころとまなざし」展(会場：東京都江戸東京博物館)と合わせ、「漱石文庫」を広く紹介することができました。

本展の開催に際し関係各位から頂戴したご厚意に、心より御礼申し上げます。

展示会

- ・ 入場者数：5,663人
- ・ 会 期：平成20年3月15日(日)～5月18日(日) 52日間
- ・ 主 催：仙台文学館
- ・ 共 催：東北大学 朝日新聞社
- ・ 会 場：仙台文学館

展示会関連イベント

開催日	講師「題目」など	参加者
3/20 (木)	清水義範(作家) 講演会「漱石先生大いに悩む」	170名
3/28 (金)	佐藤伸宏(東北大学教授) 文学サロン「『永日小品』のなかのロンドン」	73名
4/12 (土)	菊田茂男(東北大学名誉教授) 文学サロン「漱石と鴎外」	202名
4/19 (土)	阿野文朗(東北大学名誉教授) 文学サロン「夏目漱石とアメリカ文学」	115名
4/27 (日)	仁平道明(東北大学教授) 文学サロン「さびしい『坊っちゃん』」	150名
5/10 (土)	原 英一(東北大学教授) 文学サロン「夏目金之助先生の英文学」	90名
4/29 (火)	武田こうじ(詩人) ポエトリーリーディング「拝啓漱石先生」	40名
5/11 (日)	出演：渡部さとる, ほか 演出：いとうみや 展示室劇場「仙台の木曜会」	40名
4/8 (火) 4/15 (火) 4/22 (火)	木戸浦豊和(東北大学附属図書館) 「『漱石文庫』資料解説」	65名
4/13 (日)	渡部直子(仙台文学館) 「展示解説」	25名



展示会ポスター

展示会の様子



「僕の理想を云へば学校へは出ないで毎週一回自宅へ平常出入りする学生諸君を呼んで御馳走をして冗談を云つて遊びたいのです」



「漱石の作品世界」
漱石の作品のあらすじや、初版本、創作のためのメモなどを紹介



「漱石の生涯」
漱石と、親友・正岡子規との友情を紹介



「漱石の精神を仙台に」
阿部次郎と漱石の関わりを紹介



「漱石山房」
早稲田南町「漱石の山房」の復元模型の紹介（パネル展示）や、漱石の面会日「木曜会」に訪れた門下生たちを紹介



小宮豊隆と漱石の師弟関係。漱石は小宮に宛てて、「僕をおとっさんにするのはいいが、そんな大きなむす子があると思うと落ちついて騒げない。僕は是でも青年だぜ」と書き送っている



「仙台に息づく漱石文庫」
「漱石文庫」の中から、漱石の蔵書と自筆資料を紹介

主なアンケートの声

- ・韓国から来た留学生ですが、夏目漱石の生き生きした字を見てドキドキしました。ものすごく良かったと思います
- ・漱石の蔵書が仙台に多く保管されていることをはじめて知りました。面白かったので、もっとPRして多くの人にみてもらいたいです。
- ・（……）漱石の展示をコンパクトにした分、後半の「精神」が仙台に息づいた歴史がよく分かり、面白く観覧できた。全体的に解説がよくできていると思います。
- ・仙台にある夏目漱石蔵書の紹介と仙台の木曜会の紹介に重点をおいたのは適切であった。（…）

・漱石さんの自筆の日記、小説原稿などが見られてよかったです。とにかくマメな人。ハガキや書簡を出して門下生をばげましたり…。携帯電話やパソコンが手離せない現在、字を書くことの大切さを改めて感じました。（……）

・自分の育った仙台にもたくさんの文学の根があったのだなとカンゲキしました。

・2時間かけてゆっくり思いのたけ、心の軸に触れさせていただきました。再び坊つちゃんから読んでみたいです。

・興味を持って見たので楽しめました。こういった展示ならではのこまかな部分をそれこそより道をするように見るのが楽しいですね。

・夏目漱石と仙台の関連、全く知らずに参りました。大変内容の濃いすばらしいものでした。

（……）

・非常によい展示だったと思います。作品も多く感銘を受けました。若い人たちが多数見に来てくれることを願っています。

（夏目漱石展対応作業部会）



漱石と読書

総務課情報企画係 木戸浦 豊 和

本稿は、仙台文学館特別展「学都に息づく夏目漱石の精神 - 仙台の「漱石文庫」から」に際し行った「「漱石文庫」資料解説」(4月8日、15日、22日)の内容に基づきます。

はじめに

これから東北大学附属図書館が所蔵する漱石文庫について解説をして参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて本日の内容ですが、はじめに「漱石文庫の概要」について触れ、続いて「漱石と読書」、そして「漱石の蔵書」という順番で話を進めて行きたいと思います。

1. 漱石文庫の概要

(1) 漱石文庫の蔵書

それではまず、今回の特別展の名称にも含まれる「漱石文庫」とは、そもそもどのようなものなのでしょうか。

すでにご承知の方も多いかと思いますが、漱石文庫とは、大きく、次の2つの資料群から構成されています。1つは夏目漱石自身が購入し、生涯手元に置いていた本、約3000冊。もう1つは、漱石の原稿や日記、創作メモや研究ノートなど、身辺自筆資料と呼ばれている資料約800点。

大別すると漱石文庫はこの2つの資料群から成り立っており、いずれも夏目漱石遺愛の、大変貴重な資料であると言えます。

続いて、漱石文庫の蔵書数について見てみましょう。漱石文庫の蔵書は、洋書が1707冊(1188点)、和漢書が1215冊(430点)、合計で2922冊(1618点)となっています⁽¹⁾。全体の半数以上が洋書であり、例えば漱石は、漱石山房の「書齋に坐つて、四方に並べてある書棚を見渡し」

た時、「異国産の思想を青く綴ぢたり赤く綴ぢたりした」書物に囲まれて、「少しは得意」な気持ちを抱いたこともあった(「東洋美術図譜」と述懐しています。

そして約3000冊の蔵書のうち英文学が879冊(598点)と全体の約3割を占めています。英文学関連の本が多いのは、ご承知のとおり、漱石は小説家になる以前は英文学者でしたので、これは当然と言えるかもしれません。

漱石が購入した本には、廉価版の本が多く含まれるということはしばしば指摘されているところです。例えば漱石が高く評価していたイギリスの小説家にジョージ・メレディス(George Meredith, 1828~1909)という作家がいますが、その敬愛するメレディスの作品でも全集を全て揃えているというわけではなく、必要な作品だけを買ったり、また植民地版のような、安価な作品集から選んで購入したりすることもあったようです⁽²⁾。

(2) 漱石の知的関心

ではもう少し詳しく、漱石の蔵書について見てみましょう。

漱石の蔵書を分野ごとに眺めてみると、他にも、文学一般50冊(42点)、他国文学210冊(169点)、哲学106冊(86点)、科学88冊(87点)、芸術137冊(38点)など、非常に多様な分野の図書が含まれていることが分かります。

漱石自身、「読むといふことは好きで」、文学に限らず、「倫理、心理、哲学、絵画に関する書物なども、好んで読むやうにはしてゐる」と述べていますが(「読書と創作」)、漱石文庫の蔵書は、このような漱石の旺盛な知的関心のあり方を端的に反映していると言えるでしょう。

(3) 鷗外献呈本の行方

ただし意外なのは、漱石文庫の蔵書には日本

の同時代の作家の作品が極めて少ないということです。漱石は『朝日新聞』で文芸欄を主宰し同時代の文学に広く目を配るとともに、多くの新進作家の作品に序文を寄せたりもしました。

さらに漱石の書簡集を繙くと、例えば漱石と森鷗外との間で幾度か単行本の献呈が行われていたことが分かります。いったい鷗外が漱石に贈った本はどこに消えてしまったのでしょうか。

実は、現在、漱石文庫の中に日本人作家による小説が少ないのは、漱石の生前、漱石の門下生でもある内田百閒が、目録を作成するという名目で漱石の本の一部を自宅に運び出し、しかも生活に窮した百閒は、どうやら漱石の本を古本屋に売ってしまったらしいからなのですね⁽³⁾。

同じく漱石門下の一人、林原耕三によれば、漱石が亡くなる2、3年前に百閒が、書架から溢れ、板の間に幾山も積み上げられていた和書や外国の雑誌を、「あの本や雑誌は私の家へ持つて行つて、整然と分類し、カタログを作つて、私が保管いたしませう、どの本かが御入用の時にはすぐさま持参いたしますから、と申し出て、「荷車を雇つて自宅へ運」(「漱石山房回顧」)んでしまったと述べています。

そして当事者である百閒は、持ち出した漱石の本の消息について、「その後暮らしの不始末で何度も追ひ立てられる様な引越しをする度に大変な荷厄介になつたが、その内に貧乏が高じて明日の米を買ふお金にも事を欠く羽目になつた。当時の俊秀が誠心をこめて漱石先生に献じた著書が、私の家の子供達を養ふ資に代はる為に、署名入りのあら本となつて古本屋の列んである町へ、次から次へと消えて行つた(「新本」)と、少々意地悪く述べています。

(4) 漱石文庫の身辺自筆資料

漱石文庫は漱石の蔵書のほかにも身辺自筆資料と呼ばれる資料が約800点ほどあります。この身辺自筆資料は、漱石の日記や手帳類15冊、単行本『吾輩八猫デアル』上巻の序文原稿や講

演「創作家の態度」の原稿、漱石晩年の自伝的小説『道草』の反故原稿、小説執筆のための創作メモ、あるいは文学研究のためのノート、さらには学生時代の試験答案や、教師時代に作成した英語の試験問題、漱石自筆の絵画、門下生や知人に貸し出した本やお金の貸し付け簿、押し花や押し葉など、実に多くの漱石ゆかりの資料が含まれています。

漱石の蔵書と身辺自筆資料 - これらの資料から構成される漱石文庫は、漱石の知的な興味や創作の秘密、あるいは、秘められた漱石の心やその生活の一端などを、私たちの前に垣間見せてくれる資料群であると言えるでしょう。

2. 漱石と読書

(1) 読書家・漱石

では続いて漱石の読書体験や読書法、あるいは読書観について紹介したいと思います。漱石は約3000冊の蔵書を実際にはどのように読んでいたのでしょうか。

まず漱石は本を読むことについて「私などは読書に要する金と時とを惜しくも思はず、却つて義務の様に感じてゐる」(「読書と西洋の社会」)と述べています。

そして小宮豊隆によれば、漱石には「珍本だから買ふの、稀覯本だから所蔵するのといふ、骨董趣味」はなく、あくまでも「自分が読みたいと思う本だけを集める方針」で、「漱石の蔵書で特に目立つことは、その蔵書にいろんな書き入れがある」ということです(「漱石文庫」)。

先に漱石の蔵書は廉価な本が多いと申し上げましたが、漱石は本を愛賞する愛書家とか、多くの本を集める蔵書家というよりも、やはり実際に多くの本を読む読書家であったのだろうと思います。

(2) 漱石の読書法

その読書家である漱石には、本を読む際に傍線を引いたり、余白に書き込みをしたり、あるいはノートを取りながら本を読むという習慣がありました。例えば漱石自身、イギリス留学中

を回想して次のように述べています。

余は余の有する限りの精力を挙げて、購へる書を片端より読み、読みたる箇所に傍註を施こし、必要に逢ふ毎にノートを取れり。(『文学論』序)

そしてやはりこれもイギリス留学中のエピソードに属しますが、ある婦人から、夏目さんは大変勉強なさるそうですけれど、「御調べになる時はブリチツシュ・ミュージアムへ御出掛けになりますか」と聞かれ、「あそこへは余り参りません、本へ矢鱈にノートを書き付けたり棒を引いたりする癖があるものですから」(『自転車日記』)と答えています。

そして実際に漱石文庫の蔵書を見ると、洋書の3割を超える本に何らかの書き込みや傍線があるのですね。後ほど漱石による書き込みのある本を紹介いたしますが、これらの書き込みを調査することによって、漱石の創作上の秘密に迫ろうとする研究が現在でも活発に行われています。

(3) 漱石の愛読書

では、読書家の漱石にとって愛読書と言えるような本はあったのでしょうか。

実は漱石は、読書に関する様々なインタビューに応じる中で、一貫して愛読書はないと答えています。

例えば、「愛読書は何だと聞かれると困る。僕には朝夕巻を措かずといふやうな本はない」(『余の愛読書』)とか、あるいは、「僕は大抵一度読みつ放しにするだけで、二度と繰返す事は殆んどない位だから何を愛読するかと聞かれると一寸困る」(『愛読せる外国の小説戯曲』)などと言っているのです。

このような漱石の発言を捉えて、例えば小宮豊隆は、「漱石は本を読む場合、これは一生に一度しか読めない本であるといふやうな気持で、本を読むことにしてゐたのではないか」とか、「漱石は「読書」に際して、それまでの自

分の全体験、全教養、全生活、一口に言へば自分の全人格を挙げて、その本に対し、その本と精到に対決するやうな気組で、その本を読んでゐたに違ひない」(『漱石の読書法』)と指摘しています。

(4) 漱石の読まなかった本

また、漱石は買った本の全てを読んでいたのかというと、さすがの漱石でも、購入はしたものの実際には読まなかった本もあったようです。

例えば、今回展示されているイタリアの作家ガブリエル・ダンヌンツィオ (Gabriele D'Annunzio, 1863~1938) の『フレイム・オブ・ライフ』(『The Flame of Life』)には未開封のページが多くあり、また、同じく展示中のカール・マルクス (Karl Marx, 1818~1883) の『資本論』英訳版 (『Capital』) についても、書き込みや傍線が一切なく、これなども購入はしたものの、実際にはきちんとは読まれなかった1冊だろうと思われます。

(5) 多読のすすめ

そして、職業としての教師に不満を覚えつつも、一方では責任感が強く、熱心に教育にあたってゐた漱石は、これから学問を志す学生たちに対し、読書について、例えば次のようなアドバイスを贈っています。

英語を修むる青年は或る程度まで修めたら辞書を引かないで無茶苦茶に英書を沢山(たん)と読むがよい、少し解らない節があつても其処は飛ばして読んで往つてもドシ／＼と読書して往くと終には解るやうになる。(『現代読書法』)

読めれば手当たり次第に読むがいい。何でもかまわぬから読んで、面白くなければよしたらいい。全部読むには限らない。(中略) 一高の図書館にあるくらいの本は、片っぱしから読んでしまいなさい。(高田元三郎『記者の手帖から』)

このように漱石は初学者に対しては、まず多読することを推奨していました。

(6) 英文学者? やくざな小説家?

漱石と読書に関して他にも面白いエピソードが残されているので、ここで紹介したいと思います⁽⁴⁾。

英文学の研究をしたいという学生にどのように勉強を進めたら良いかと尋ねられた漱石は、「毎月々々、シックスペンスライブラリーを廿冊づゝ読め、それと同時に、現時の作家の新作を、少くとも五六冊づゝ読まねば駄目だと」答えたといひます。

シックスペンスライブラリーとは、当時1冊6ペンスで刊行されていた、粗末な体裁の安価な本のことで、今回展示されているイギリスの小説家ラドヤード・キプリング (Joseph Rudyard Kipling, 1865 ~ 1936) の詩集 (*Departmental Ditties and Other Verses*) も、そのようなシックスペンス叢書の1冊です。

毎日1冊ずつ英語の本を読みなさいと言われた学生は、非常に驚き、「そんなら、先生は毎月々々、そんなに沢山お読みになるんですか」と尋ねたところ、当の漱石は、「いや、だから俺なんぞ英文学者でも何でもない、やくざな小説家なんどになつて了つた」(「道聴塗説」)と返したという、いかにも漱石らしい(?)挿話が伝えられています。

(7) 漱石の「読書心得」

漱石は、このように、学生に対してはまず多読することを奨めていたようです。しかし一方では漱石は、多読することの弊害についても指摘しているのですね。

例えば金子健二という学生 - 漱石の東京帝国大学講師時代の教え子に対し、次のような「読書心得」を語ったこともあったそうです。

- 一．西洋人の書いた書物を読む時に必ず心得べき事は批評家の言を初めから聴かざる事
- 一．西洋人の書いた文学書を読んで自分自身が興味を持った点があつたならば、その感じ

をどこ迄も尊重する事

一．読書人は動もすれば多く読む程自己の尊きものを失つて作家の奴隷になつてゆく虞れが多分にあるから、読書を好む人は常にこの事を忘れないで堅く自分自身の心の品位を守つてゆく事 (金子健二『人間漱石』)

読書をすることによって他者の意見や考えに左右され、自分自身を見喪うようなことがあつてはならない - 漱石は自らの体験に基づいてこのように学生たちを戒めたのではないのでしょうか。

晩年、漱石は、学習院に学ぶ若者たちに向けて語った、「私の個人主義」という非常に有名な講演の中で、自らの過去を開陳しつつ、「自己本位」の大切さを説きました。漱石が自らの体験に基づいて築き上げた「自己本位」の思想と、この「読書心得」 - 読書に際して批評家の意見を鵜呑みにはせず、「自分自身の心の品位を守つてゆく事」 - は、どこかで通底しているようにも思われます。

そして、このような読書に対する漱石の真摯な姿勢は若い頃から一貫していたようです。例えば親友・正岡子規に宛てた書簡の中には、「Idea ヲ涵養スルニハ Culture ガ肝要」であり、「Culture」を養うためには「読書ヲ捨テテ他ノ法ナキ」(明治22年12月31日付)と述べています。自分の思想を養うためには教養が必要であり、その教養を養うためには読書以外に方法はないという認識です。

さらに漱石は、小説家になってからも次のような発言をしています。

機械的に詰込むと言ふよりも、自発的態度と精神とを以て、その読書し得たる処より何等かの新思想を得、又一方には雑多なる知識を取纏めて一種の系統を得るやうに心懸くる (「余が一家の読書法」)

このように漱石は、多読することを奨めつつ

も、その読書が単なる知識の詰め込みや受け売りに終わってはいけない、何よりも本を読んで自分で考えること、そして自分自身の思想を築き上げることが大切だと考えていたようです。

3. 漱石の蔵書

(1) 学者としての書き込み

さて、これまで、漱石の読書観・読書法について紹介して参りましたが、続いて、実際に漱石による書き込みのある本を紹介しながら、漱石の読書体験について、具体的に見てみたいと思います。

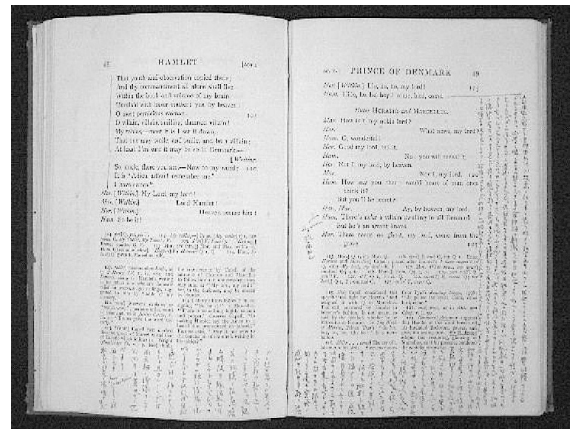
小宮豊隆は、作家以前と以後とでは漱石の書き込みの性質に違いがあると指摘しています。作家以前の書き込みには、「学者としての立場からの、批評や感想が」目立ち、明治40年(1907)に専業作家となつてからは、「自分ならかう書くとか、自分にはかうは書けないとか」、「漱石の作家としての自覚」が明瞭に表れていると述べています(「別冊」)。

ではまず、英文学者・英語教師としての書き込みの代表的なものを紹介いたします。

漱石は、イギリス留学から帰国した、明治36年(1903)から明治40年(1907)にかけて東京帝国大学や旧制一高などで英文学を教えました。東京帝国大学では、漱石は主に「文学概説」という文学の理論的な講義とシェイクスピアの作品講読を行ったようです。

漱石文庫には複数のシェイクスピア全集があり、次の資料はアーデン版と呼ばれている作品集の、『ハムレット』(*The tragedy of Hamlet*)です。漱石は授業にはこのアーデン版と、註釈書を持参して授業に臨んでいたようです(松浦一「『文学論の頃』」)。

余白の大部分を細緻な書き込みが埋め尽くしていますが、本書には、語句の意味や解釈をめぐる書き込みが多く、漱石が英文学者として精読したその痕跡が、はっきりと刻まれています。



William Shakespeare. *The Tragedy of Hamlet*. 1899

(2) 小説家としての書き込み

では、続いて漱石の小説家としての側面がうかがえる書き込みについても見てみたいと思います。漱石は、創作のアイデアを得る方法としての「人工的感興(インスピレーション)」ということを語っています。

「人工的インスピレーション」とは漱石による造語であると思いますが、漱石自身、次のように解説しています。

「自分が小説を作らうと思う時は、何でも有り合わせの小説を五枚なり十枚なりを読んでみる、すると、「自分ならば是をかうして見たいとか、是を敷衍して見たいとか、さまざまな思想が湧いて来る」(「人工的感興」)。

読書を通じて小説のアイデアを得ること - 漱石はこの方法を「人工的インスピレーション」と呼んでいたようです。

漱石は、自分の過去や体験を直接的に小説に反映させる作家ではなく、想像力によって、そして何よりも本を読むことによって、自分のアイデアを深め、作品を構想して行く、そのようなタイプの小説家だったと言えるのだろうと思います。

そして漱石文庫の蔵書には、このような漱石の「人工的インスピレーション」を示す多くの感想が記されています。

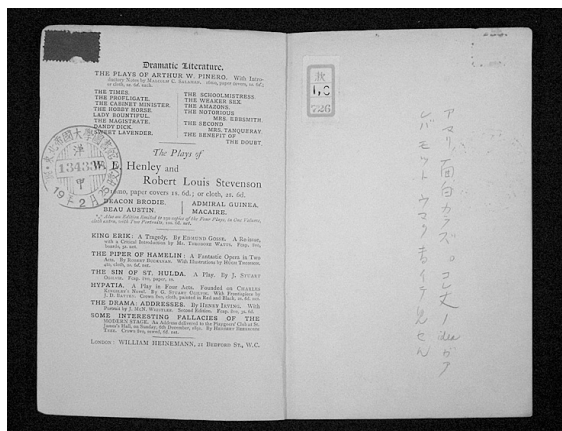
例えば、北欧にヘンリック・イブセン(Henrik Ibsen, 1828~1906)という劇作家がいます。

漱石も「北欧の偉人イブセン」(「草枕」)とか「イブセンは豪い。(中略)彼は其劇に於て吾人を人間意識の急所迄連れ込んで行く男である」(「愛読せる外国の小説戯曲」)などと、高く評価していた作家です。

漱石は英語に翻訳されたイブセンの作品を数多く揃えていました。ここでは漱石が所蔵していたイブセンの作品の中から『小さなエイヨルフ』(*The Little Eyolf*)を紹介いたします。

『小さなエイヨルフ』という作品は、エイヨルフという9歳の子どもが海で水死し、そのエイヨルフの痛ましい死を通じて、それまで情動的に擦れ違っていた夫婦が和解し、回心し、新しく生き直そうと決意する、そのような筋になっています。

その『小さなエイヨルフ』の見返しには、「アマリ面白カラズ。コレ丈ノidea ガアレバモツトウマク書イテ見セル」と漱石の書き込みがあります。



Henrik Ibsen. *Little Eyolf*. 1897

この作品を漱石がいつ読んだのか確定はできませんが、漱石自身も夫婦の擦れ違いや幼い子どもの死をモチーフにした小説を数多く描いており、そのことを想起すると、この書き込みに込められた漱石の小説家としての自負がよく推察し得るようにも思います。

次に紹介するのは、明治41年(1908)4月に読み終えたと思われる、ドイツの小説家・劇作家のヘルマン・ズーダーマン(Hermann

Sudermann, 1857~1928)の『レギーネ』(*Regina*)という小説の英訳です。

現在では、このズーダーマンという作家は、日本はもちろんのこと、本国のドイツでもほぼ忘れ去られた作家のようですが、明治時代から昭和のはじめにかけて日本でも翻訳が出版され、漱石もなぜか称賛している作家です。

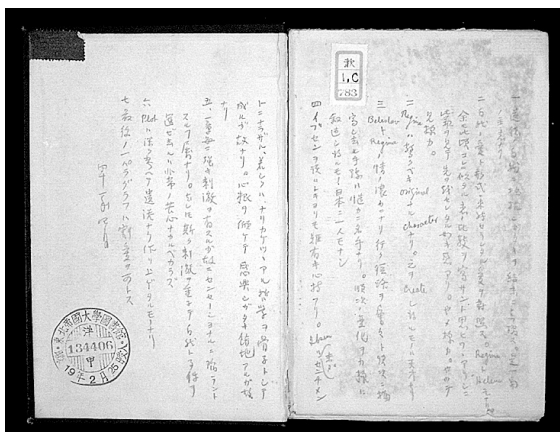
例えば漱石はある談話の中で、不倫の愛を描いたこの『レギーネ』について、次のように述べています。

二人のラヴの書き方が面白い。(中略)刺激の強い殆どセンセーショナルに近い場ばかり並べてあるにも拘わらずそれが非常にナチュラルで、デユヴエロツプメントが層々累々とシフトして行く移り具合が大変旨い、詮り私は深さのある小説だと思ふ。(「文学雑話」)

漱石はこのように『レギーネ』に対し、ほぼ絶賛に近い評価を与えています。そしてこの本の見返しには、7項目に分けて - 漱石は番号付けを間違っているの、正確には8項目ですが - 感想が記されており、その中の1つに、「自然ノ愛ト形式ニ束縛セラレタル愛ヲ対照ス。(中略)余モ此頃コレニ似タル恋ノ比較ヲ写サント思ヒツ、アリシニ此篇ヲ見テ先ヲ越セタル如キ感アリ。やメ様力。ヤツテ見様力」と記されています。

このような「自然ノ愛」と「形式ニ束縛セラレタル愛」の対比は何よりも『それから』(1909)の物語を連想させるでしょう。

この感想を記した明治41年4月という時点は、漱石が『三四郎』を執筆する直前にあたります。『三四郎』は明治41年9月から12月まで『朝日新聞』に連載されました。この事実は、漱石が、『三四郎』そして『それから』へと小説を書き継いで行く中で、自らの創作の主題を模索し、そして深化・発展させて行く過程に、読書体験が大きく関与したことを示す事例の一つであるように思われます。



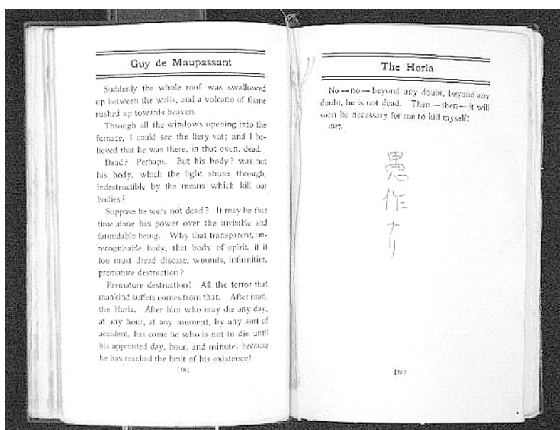
Hermann Suderman. *Regina*. 1899.

そして最後に紹介するのは、フランスの小説家ギイ・ド・モーパッサン (Guy de Maupassant, 1850 ~ 1893) の短編集 (*Works*) の英訳版です。漱石はモーパッサンには非常に点が辛いのですね。

この短編集に収められた作品の一つ、「首飾り」(“The Necklace”)の末尾に、漱石は、「此落チガ、嫌デアル。(中略)ナゼモーパッサンはかうだらう」と記しています。

モーパッサンの短編には皮肉な結末で終わる作品が数多くありますが、漱石は、この「首飾り」への書き込みが端的に表しているように、モーパッサンの、人間へのシニカルでアイロニカルな視線を、「美德ヲ殺シテ仕舞」うものとして、とても嫌ったようです。

そして漱石は、この短編集に収められた諸作品を読んだ後、まるで憤りを押さえきれず、憤



Guy de Maupassant. *Works*. 1907.

憑やるかたないと言わんばかりの筆致で、「愚作ナリ」を連発しているのです。「オルラ」(“The Horla”),「豆戦士」(“Little Soldier”),「臆病者」(“A Coward”),これらの作品の終わりには「愚作ナリ」「是も愚作ナリ」と大書されているのがお分かりになるかと思います。

おわりに

著名な評論家・批評家の故・江藤淳氏、そして吉本隆明氏は、漱石の作品について、例えば、「漱石という人はおそろしく孤独な人間だったが、漱石の作品は不思議と読書を孤独にしない」(江藤淳「現代と漱石と私」)、「結局は、作品を読む読者に対して、こういうところはおれだけしか分からないよというふうに思わせる、本当はそんなことじゃないんですけど、そう思わせる要素が多い作品はいい作品なんじゃないかという、これは僕が漱石を読んだということから導いた、非常に大きな収穫」(吉本隆明・小森陽一・石原千秋「鼎談 一郎的な言葉を生きること」)などと語っています。

散漫な解説で、漱石と漱石文庫の魅力をどこまで伝え得たのか甚だ心許ありませんが、実際に展示されている資料をご覧いただき、漱石作品の持つ豊かさと、そして漱石の「ストイックな、しかし優しい心」(江藤前掲論文)と、再び、巡り会っていただければと思います。

(きどうら・とよかず)

註

- (1) 原田隆吉「東北大学附属図書館「漱石文庫」の成立」(『図書館学研究報告』第9巻, 東北大学附属図書館, 1976年12月)
- (2) 飛ヶ谷美穂子「漱石の愛蔵書」(『図書』第630号, 岩波書店, 2001年10月)
- (3) 二見和彦「鷗外から漱石に贈った「涓滴」の足跡を辿る」(『日本古書通信』第821号, 日本古書通信社, 1997年12月)。川島幸希『署名本の世界 - 漱石・鷗外から太宰・中也まで』日本古書通信社, 1998年6月)
- (4) 飛ヶ谷美穂子「英学から英文学へ - 漱石の修

行時代」(『文学』第1巻第3号, 岩波書店, 2000年6月)

引用文献

- ・林原耕三「漱石山房回顧」(『漱石山房の人々』講談社, 1971年9月)
- ・内田百閒「新本」(『新輯 内田百全集』第12巻, 福武書店, 1987年12月)
- ・小宮豊隆「漱石文庫」(『人のこと自分のこと』角川書店, 1955年5月)
- ・小宮豊隆「漱石の読書法」(福原麟太郎『現代教養講座4 読書のすすめ』角川書店, 1957年3月)
- ・高田元三郎『記者の手帖から』時事通信社, 1967年4月
- ・「道聴塗説」『文章世界』第2巻第9号, 博文館, 1907年7月(平野清介編著『日本文豪資料集成 雑誌集成夏目漱石像』第4巻, 明治大正昭和新聞研究会, 1981年9月)
- ・金子健二『人間漱石』いちろ社, 1948年11月
- ・小宮豊隆「別冊」(『漱石の芸術』岩波書店, 1942年12月)
- ・松浦一「『文学論』の頃」(『漱石全集月報』第8号, 漱石全集刊行会, 1928年10月)
- ・江藤淳「現代と漱石と私」(『決定版 夏目漱石』新潮文庫, 1979年7月)
- ・吉本隆明・小森陽一・石原千秋「鼎談 一郎の言葉を生きること」(『漱石研究』第15号, 翰林書房, 2002年10月)

漱石からの引用は全て『漱石全集』全28巻別巻1(岩波書店, 1993年12月~1999年3月)に拠ります。



平成20年度新入生向け図書館オリエンテーション等の開催

情報サービス課参考調査係

新入生向けイベントとして、前年から引き続き川内地区学部・研究科新入生オリエンテーションにおける図書館ガイダンス、図書館オリエンテーションを開催した。

図書館ガイダンスは、4月7日を中心に川内地区の学部・研究科（文・教・法・経・国際・教情）が行う新入生オリエンテーションに当館職員が参加して、図書館概要の説明と図書館オリエンテーションへの参加を呼びかける内容で、9会場、約1,000名に対して実施された。

説明者と補助者2名の情報サービス課の職員をオリエンテーション会場に派遣し、10分程度図書館と新入生オリエンテーションの紹介を行った。各会場では、図書館利用案内のほか、『情報検索の基礎知識基本編2008』を全新生に配布し、広報を行った。留学生向けには英語版の『基礎知識』も配布した。

特に教育学部では、毎年ガイダンスに1時間かけ、図書館内会場で行っている。図書館利用

法の紹介のみならず、大学での学術研究と図書館、教育学部生に読んで欲しい資料というテーマで担当者が説明を行い、加えて貴重書展示室見学も行った。

図書館オリエンテーションは4月3～4日、8～11日の6日間行い、約500名の参加者があった。今年度は入学式と学部ガイダンス・授業開始まで時間があつたこと、入学式での図書館紹介を理事である野家館長が行つたこと、好天と様々な要因が重なつたためか前半2日間で200名以上の参加があつた。

図書館オリエンテーションは約1時間で、図書館紹介のビデオ上映、MyLibraryなどビデオでは紹介されない新しい機能の補足説明、図書館ツアーで構成された。通常新入生は入れない書庫などを含んだツアーでは、同じ見学コースでありながら、引率者各自の経験が生かされたグループごとにユニークなツアーとなつた。



平成20年度図書館主催講習会

情報サービス課参考調査係

従来は5月に蔵書検索講習会、6月に文献検索講習会を行ってきたが、参加者のアンケートでは「もっと早い時期に文献の探し方講習会を開いて欲しい」という声が強かった。そこで今年は構成を新たにし、以下の講習会を開催した。

【文系大学院生のための文献検索講習会】

4月16・18・22・24日の4日間計8回で開催した。初めての企画として大学院生向けの文献検索講習会を4月に行った。他大学からの進学者、社会人入学者等の参加を想定し、基本的な文献検索データベース紹介のほか、図書館利用案内も含めた構成とした。入学時配布資料にチラシを封入した広報が効果的であったようで、学外からの進学者を中心として55名の参加があった。

【卒論のための文献検索講習会】

5月20・21・23日の3日間計6回開催した。単に文献データベースの使い方だけでなく、検索から入手までの一連の流れを重視した解説を行った。また、テーマから検索キーワードを考える手順、参考文献の読み方などを重点的に

説明した。27名の参加があった。

【蔵書検索講習会（初級編）】

6月18～24日の5日間計10回開催した。全く蔵書検索を行ったことがない1年生レベルを想定した。図書と雑誌の違い、検索のポイント、分類についての理解、MyLibraryを使ったOPAC活用法等を説明した。

【新聞検索講習会】

6月27日の夕方に開催した。新聞の調べ方については意外に問い合わせが多い。従来学部依頼の講習会では説明することがあったが、新聞のみの講習会を初めて開催した。4名の参加があった。

各講習会参加者からは「分かりやすくて今後の研究の助けになりました。」「このように便利な文献検索ができるとはしらず今日はとてもおどろいた。」などの意見が寄せられた。各講習会参加者からは概ね「役に立った」と好評を得た。

研究室向け個別図書館ガイダンス開催

情報サービス課参考調査係

毎年4～6月にかけて研究室向けの個別講習会を開催している。今年度は文学部と教育学部、経済学部の演習を主とした9クラスの約100名に対して、合計13回の講習を行った。図書館が主催する蔵書検索講習会、情報検索講習会が一般的、初級的内容であるのに対して、研究室向けの個別講習会では担当者と教員との打合せの上その研究室の要望に合わせたデータベースの

紹介等を行っている。毎年開講している研究室では2～3回の連続講習の依頼が増えてきている。内容はさまざま蔵書検索実習のみのこともあり、貴重書展示室の見学を行うこともある。研究室・授業単位の講習会ご希望があれば、下記にご連絡ください。

desk@library.tohoku.ac.jp 参考調査係

2008年日・EU フレンドシップウィークイベント：「ユーロ」展開催

情報サービス課参考調査係

「日・EU フレンドシップウィーク」イベント7回目の今年は、「ユーロ」展と題して5月14日～25日までの12日間、附属図書館本館の入館ゲート付近フロアで開催した。

過去の同展示のアンケートで最も関心の高かった欧州統一通貨ユーロを取り上げた。現在域内15カ国で流通しているユーロ紙幣、コインのデザインを中心に紹介した。コイン表面は共通だが、裏面は各国独自のデザインが施されており、それを一覧したものが特に好評だった。展示内容を見て回答する簡単なクイズを行い、正解者にはEUオリジナルの携帯ストラップまたはピンバッジを贈呈した。

東北大学附属図書館は1983年からEU情報センター（European Info = EUi）として活動し、ブリュッセルのEU本部から様々な資料が送付されてきている。欧州へ旅行・留学される前には是非お立ち寄りいただきたい。また、欧州連合のウェブサイト（ヨーロッパサーバ）<http://europa.eu/>でも法令・判例等種々の情報検索が可能となっている。利用法等が分からない場合は当係までお尋ねいただきたい。

終わりに紙面を借りて、ご協力下さった駐日欧州委員会代表部にお礼申し上げます。



平成20年度目録システム地域講習会（図書コース）開催

5月28日から5月30日までの3日間、附属図書館において「目録システム地域講習会（図書コース）」が開催されました。この講習会の目的は、目録業務担当の図書館職員が、日常業務において共通理解しておくべき総合目録データベースの構成、内容、データ登録の考え方（入力基準）を修得するもので、東北地区の大学や高等専門学校から17名の受講者がありました。

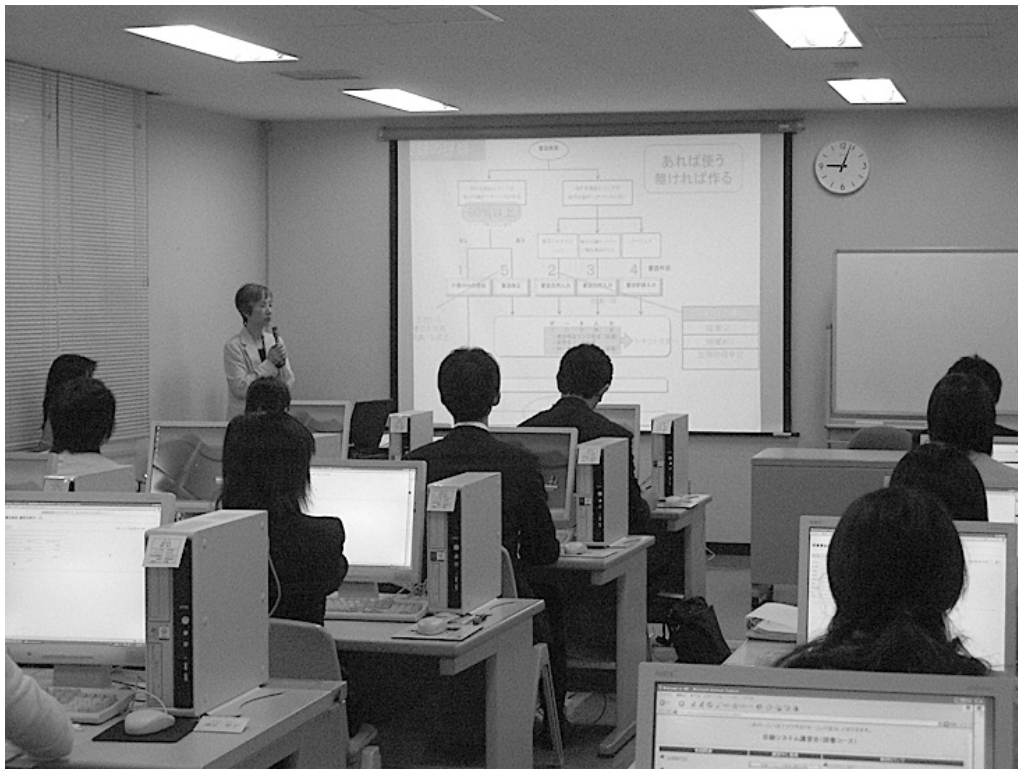
今回は、前回から導入されたセルフラーニング教材を講習会中に行うのではなく、事前学習教材として使用し、また、講習会開催までの間に事前学習修得テストを必須とする新たな方法になりました。受講者は当日までに教材と事前学習修得テストを全員クリアし、講習会に臨みました。

この事前学習の成果として、講師・講師補助

者からは、目録業務の経験の浅い方が多かったものの理解度は高く感じられたという声があがり、受講生アンケートからは、事前に学習することで基礎知識が得られ、実際の講習会でわからなかったことが理解でき、実習もできたことでよかったという感想が多数ありました。

講習会も、講師として国立情報学研究所（NII）から派遣されたNPO職員の高野氏を迎え、第1日目午後と第2日目の午前を担当いただき、長年の経験を基にされた軽快な講義から、受講生だけでなく、その時間を担当していた当館講師・講師補助者も改めて勉強させていただく機会を得られました。受講生からも講師・講師補助者の適切な講義の進め方や質問しやすい雰囲気の評価いただき、無事に3日間を終了しました。

（情報管理課）



平成20年度目録システム地域講習会（図書コース）を受講して

農学分館図書係 小野寺 毅

平成20年5月28日から5月30日までの3日間、国立情報学研究所と東北大学附属図書館の共催により開催された目録システム地域講習会（図書コース）を受講する機会を得ました。東北地区の国公立大学や高等専門学校から合計17名が本講習会を受講しました。

私は普段の業務では図書の目録には関わっていないのですが、この機会に図書の目録の基本を少しでも身に付けられたらという思いで受講を希望しました。今年から講習会を受講するには、NIIが作成した「セルフラーニング教材」を利用して各自事前学習を行い、事前テストで一定点数以上を取得することが必須条件となりました。これは普段目録業務に携わっていない私にとっては、講習前に最低限の基礎知識の確認ができるいい機会となり、大変良かったと思います。「セルフラーニング教材」はいわゆるe-ラーニング教材で、受講者は自分の好きな時間に自分のペースで学習を進めることができます。また、教材の解説はとても丁寧でわかりやすく、途中にはクイズなども盛り込まれた構成になっており、自分が学習内容をどの程度理解できたかを確認しながら進める事ができました。

3日間の講習会は、実習と講義を組み合わせた構成で、書誌検索や所蔵登録、書誌作成等の技術のほか、目録所在情報サービスの基本思想などシステムの背景にある考え方についての理解を深めることができました。また、総合目録データベースの品質管理の問題などといった、目録システムの現状についても知ることができました。

目録システムでは、参加図書館によるオンライン共同分担入力方式をとることにより、各図書館での目録作成の重複を防ぎ、目録業務の負担を軽減しています。2008年5月現在、参加機

関は1,200機関を超えており、5,000人以上の目録担当者が同時に目録を作成しているといわれています。また、1日あたりの登録件数は、図書の書誌は1,600件、所蔵は23,000件にのぼります。このように膨大な図書の情報が日々目録システムによって蓄積されている訳ですが、同時に目録担当者の検索スキルや目録知識が不十分ために重複レコードが作成されることも少なくなく、年間35,000件の書誌レコードが削除されているということです。重複レコードの作成は総合目録データベースの品質低下に繋がり、また他の目録担当者を混乱させてしまうことにもなりかねません。それぞれが定められたルールに則り、正しい技術・知識を持って作成を行うことの大切さを痛感しました。

こういった問題点を改善していくためにも、目録業務経験の少ない職員やこれから先目録に携わっていく職員が、目録規則や操作方法を学べる本講習会のような機会を持つことは、大変重要なことであると感じます。また、この講習会では検索技術や目録知識だけでなく、日々の業務に対し常に緊張感を持ち慎重に作業に取り組む心構えなど、意識的な面でも多くのことを学びました。

3日間の講習が終わり、無事修了証書を得た訳ですが、もちろん講習を修了したからといってすぐに図書の目録を担当するわけではありません。しかし、常に緊張感を持って仕事に臨む姿勢・心構えといった意識の面で学んだことは、目録業務以外の普段の業務でも生かされていると思います。

最後になりましたが、ご指導下さいました講師の方々と今回受講の機会を与えて下さいました関係者の方々に心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

（おのでら・つよし）

『東北大学生のための情報探索の基礎知識』基本編2008，英語版2008を刊行

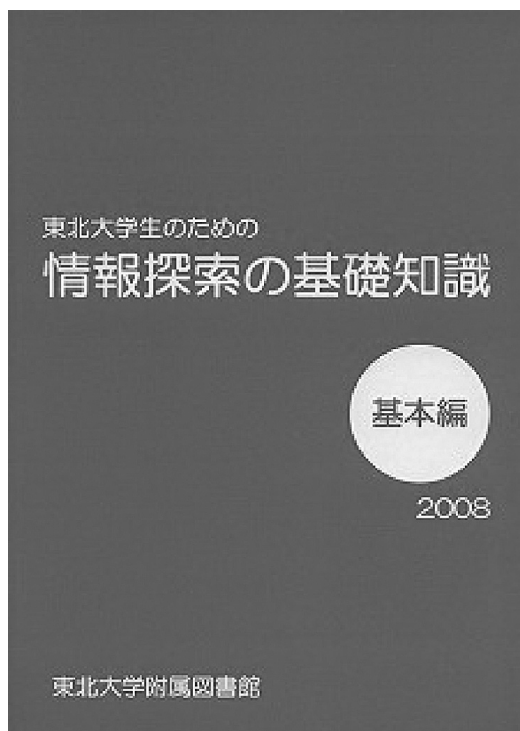
総務課情報企画係

附属図書館での各種講習会や，全学教育科目「大学生のための情報検索術」のテキストとして使用している『東北大学生のための情報探索の基礎知識 基本編2008』を刊行いたしました。また今回，英語版にも大きな増補・改訂を加え，“Guide to Academic Information Search: for Students of Tohoku University. Natural Science2008”として出版いたしました。

基本編2008について

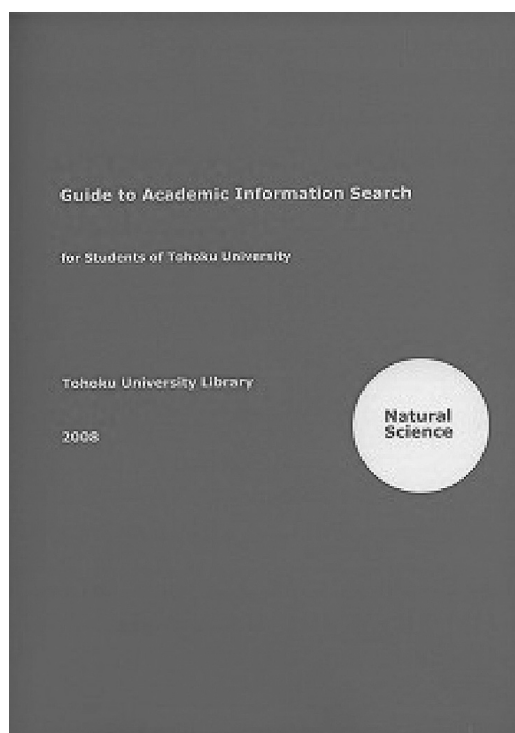
今回で第5版となる『基本編2008』では，新しく導入したツールを追加するとともに，従来のツールについても解説や図表の補訂・見直しを行っています。

レポートや論文を執筆するための効果的な情報検索の方法について基礎から身に付けたい学生の皆さまにご活用いただければと思います。



英語版2008について

今回で第2版となる英語版では，オンライン目録や電子ジャーナル，データベースの使い方に加え，今回新たに学位論文やテクニカル・レポート，会議録，特許情報などの探索方法について解説を追加しています。



入手方法

東北大学附属図書館カウンターで配布しています。授業などのためまとめて必要な場合は，下記連絡先までお問い合わせいただくか，またはホームページよりお申し込みください。なお，学外への発送は終了いたしました。

E連絡先：

東北大学附属図書館総務課情報企画係

TEL: 022-795-5925

E-Mail: kikaku@library.tohoku.ac.jp

URL:

<http://www.library.tohoku.ac.jp/mylibrary/tutorial/2008/>

平成19年度特別図書購入報告

特別図書購入費によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたのでご利用ください。

(情報管理課)

番号	資料名	内容	出版形態
1	CD-ROM版 比較文学研究 第1期～第3期	日本における比較文学・文化研究の成立(1954年)と展開を示す雑誌のCD-ROM版の復刻。	CD-ROM
2	軍政(ナンバーMG)レポート - 1945年8月～1946年6月 -	敗戦後に日本各地に展開した占領軍の「軍政部隊」が一定期間ごとに作成した報告書を集めたもの。担当した地域の政治・行政・司法・産業・労働・教育・衛生・福祉などといった幅広い分野で、占領軍による日本占領管理の実態や、各地域での戦後改革の履行状況が明らかにされている。国内の資料が乏しいこの時期にとって、本資料集の価値は高い。また東北地方や仙台を担当した軍政部隊の報告書も含まれており、占領期研究だけでなく、東北や仙台をフィールドとする地域研究にとっても、重要な資料集となる。	図書
3	Science of Religion. Vol.1 No.1-Vol.4 No.2, Vol.5No.2-Vol.30 No.2	国際宗教学学会により刊行されている、全世界で公開された宗教学関連論文の網羅的な書誌である。	図書
4	Encyclopedia of Psychotherapy. (精神療法百科事典)	精神療法に関する事項を網羅した事典。	図書
5	Health Psychology. (健康心理学)	健康心理学における、これまでに発表された研究や最新の研究のコレクション。臨床健康心理学の発達と応用の包括的な概要が学べる。	図書
6	Institutionalism. (制度主義)	制度論と政治現象に対するその応用に関する重要論文を修正したもの。政治学における制度論に主要な焦点が当てられているが、同時に制度論の発展に中心的役割を果たした他の分野の論文、あるいは政治現象の解明に重要な貢献をなした他の分野からの論文も収録されている。	図書
7	Human Rights. (人権)	20世紀後半に大きく発展した国際人権の規範と手続き理論に関する重要論文を網羅したもの。人権理論の複雑な進化の過程は、不均等な経済発展、政治的展望などを反映したものとなっている。	図書
8	河川法資料集 第1～4集	河川法(1965年)の立案過程に関する未公開資料をまとめたもの。同法は自然環境のみならず、農・工業用水、水道用水、及び災害防止といった諸分野に跨る戦後最も重要な法律の一つである。	図書
9	Fundamentals of HRM. (人的資源管理の原理)	人的資源管理に関する世界的に優れた論文を精選したもの。古典的な名著から最新の議論まで歴史的発展を包括的にレビューすることができる。	図書
10	横濱正金銀行: マイクロフィルム版; 第6集: 調査資料, J: 行報	横濱正金銀行本店から支店に宛てて発信された重要文書の綴り。	マイクロフィルム
11	Moody's Industrial Manual 2000.	米国の企業年鑑。	図書
12	榊田民蔵文庫 補完集 1. Political economy for beginners / by Millicent Garrett Fawcett. (フォーセット『初心者のための経済学』) 2. 榊田民蔵全集 第2巻～第4巻	榊田遺族宅で保管されていた文献。東北大学所蔵の榊田文庫を拡充補完する。	図書
13	Encyclopedia of Language and Education. 2nd ed. (言語と教育百科事典)	言語教育に関する最も包括的な百科事典。	図書
14	Online and Distance Learning: Concepts, Methodologies, Tools and Applications. (オンライン学習と遠隔教育)	事例研究、実証的研究、新たな学習概念の提示、成功事例など、オンライン学習や遠隔教育をめぐる様々な情報を提供するもの。情報通信技術、仮想教室、教育システム、学習コミュニティ、図書館情報システム、仮想大学等について、世界各国の多数の専門家による論考と300以上の定義的論文を収録している。	図書
15	Early English Books 1641-1700 Section 2. unit 132. Reel 2947 - 2960 (近世初期英語印刷文献集成)	清教徒革命から王政復古に至る期間の英国初期刊本を集成したもの。	マイクロフィルム
16	Parliamentary Debates(Hansard) House of Lords. 5th ser., Vols. 684-695 (英国議会上院議事録) House of Commons. 6th ser., Vols. 433, 445-451, 453-460 (英国議会上院議事録)	英国議会上院及び下院における会期毎の議事録及び議事全体について、議員の発言・討論を逐語的に収録したもの。	図書

平成19年度参考図書購入報告

参考図書費により平成19年度に購入し、本館に配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

(情報管理課)

◆ 主な継続受入資料 ◆

Book page 本の年鑑2007 1-2	美術年鑑 平成20年版
会社四季報：2007年 2, 3, 4 集	ブリタニカ国際年鑑 2007年版
会社四季報：2008年 1 集	読売年鑑2008
会社職員録 全上場会社版 2008 上, 下巻	読売年鑑 2008 別冊 分野別人名録
会社職員録 非上場会社版 2007 上, 下巻	理科年表 第81冊 (2008)
近代雑誌目次文庫 社会学 第13・15巻	歴史学事典 14
現代用語の基礎知識 2008	六法全書 平成19年版 1, 2, 補遺 平成20年版 1, 2
国語年鑑 2007年版	
国会便覧 2007/08 121-122	Althochdeutsche Wörterbuch
雑誌新聞総かたろぐ2007年版	American reference books annual 38 (2007)
出版年鑑 2007 1-2	Britannica book of the year 2007
宗教年鑑 平成18年版/文化庁編	Dizionario biografico degli italiani.68-69
世界国勢図会 2007/08/財団法人矢野恒太記念会編	Encyclopaedia Indica: India, Pakistan, Bangladesh.Vol.171-195
世界年鑑 2007	The europa World Year Book 2007 vol.1-2
世界文学あらすじ大事典 4	The Europa world of learning 58th ed. 2008
全国学校総覧 2008	The International Who's who 2008
全国試験研究機関名鑑 2008・2009	McGraw-Hill Yearbook of Science & Technology 2008
台湾総督府文書目録 第21・24巻	Neue Deutsche biographie Bd.23
中国書籍総目録 133-137	The Statesman's year-book 2008
中国年鑑 2007	Wer ist wer? : Das deutsche who's who Bd.46 2007/08
図書館年鑑 2007	Whitaker's Almanack 140th ed. 2008
日本経済新聞 CD-ROM 版 2007年版	Who was who in America : with world motables 2006・2007 Vol.18
日本国勢図会 第65版 2007/08	Who's who 1607-2007 Index
日本著者名総目録 2005/2006	Who's who in france 2008 Vol.39
日本の図書館・統計と名簿・2007	The world almanac and book of facts 2008

◆ その他の主な受入資料 ◆

インドを知る事典	日本語オノマトペ辞典
エネルギー用語辞典	日本産業技術史事典
レトリック事典	日本女性史大辞典
英和和英金融・会計用語辞典	日本名筆字典
岩波数学辞典 第4版	百人一首大事典
人名辞典 上, 下	北東アジア事典
経済用語辞典 第4版	歴史考古学大辞典
広辞苑 第6版	環境史事典
江戸武家事典	公害文献大事典
字統 新訂, 普及版	明治社会資料事典 第1巻 - 第4巻
自然災害の事典	大正社会資料事典 第1巻 - 第4巻
実用化学辞典 新装版	美術作品レファレンス事典
宗教学文献事典	ヨーロッパ統計年鑑
昭和社會資料事典 第1巻 - 第3巻	世界政治家人名事典 20世紀以降
新トレーニング用語辞典	日本社会保障大百科
大学博物館事典	現代アメリカデータ総覧
生物を科学する事典	美術家書誌の書誌
地球環境辞典	

附属図書館商議会商議員名簿

平成20年4月1日現在

所 属	氏 名	任 期
図 書 館 長	野 家 啓 一	職 指 定 (H20. 4. 1 ~ H22. 3.31)
図 書 館 副 館 長	倉 本 義 夫	職 指 定 (H17.10. 1 ~ H21. 9.30)
医 学 分 館 長	柳 澤 輝 行	職 指 定 (H19.12. 1 ~ H21. 3.31)
北 青 葉 山 分 館 長	高 木 泉	職 指 定 (H17.11. 1 ~ H21. 3.31)
工 学 分 館 長	阿 曾 弘 具	職 指 定 (H19. 4. 1 ~ H21. 3.31)
農 学 分 館 長	池 上 正 人	職 指 定 (H19. 4. 1 ~ H21. 3.31)
サイバーサイエンスセンター長	小 林 広 明	職 指 定 (H20. 4. 1 ~ H22. 3.31)
副学長(総務担当)	北 村 幸 久	職 指 定 (H20. 4. 1 ~ H22. 3.31)
文学研究科教授	小 野 善 彦	20. 4. 1 ~ 21. 3.31
教育学研究科教授	秋 永 雄 一	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
法学研究科教授	吉 原 和 志	20. 4. 1 ~ 22. 3.31
経済学研究科教授	猿 渡 啓 子	20. 4. 1 ~ 21. 3.31
理学研究科教授	佐 藤 春 夫	20. 4. 1 ~ 22. 3.31
医学系研究科教授	根 東 義 明	20. 4. 1 ~ 22. 3.31
歯学研究科教授	高 田 春比古	20. 4. 1 ~ 21. 3.31
薬学研究科教授	大 島 吉 輝	20. 4. 1 ~ 22. 3.31
工学研究科教授	進 藤 裕 英	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
農学研究科教授	山 下 ま り	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
国際文化研究科教授	横 川 和 男	20. 4. 1 ~ 21. 3.31
情報科学研究科教授	尾 畑 伸 明	16. 4. 1 ~ 21. 3.31
生命科学研究所教授	仲 村 春 和	17. 4. 1 ~ 21. 3.31
環境科学研究科教授	佐 竹 正 夫	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
医工学研究科教授	梅 村 晋一郎	20. 4. 1 ~ 22. 3.31
教育情報学研究部教授	村 木 英 治	14. 4. 1 ~ 22. 3.31
金属材料研究所教授	古 原 忠	18. 4. 1 ~ 21. 3.31
加齢医学研究所教授	山 本 徳 男	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
流体科学研究所教授	中 野 政 身	20. 4. 1 ~ 22. 3.31
電気通信研究所教授	外 山 芳 人	20. 4. 1 ~ 22. 3.31
多元物質科学研究所教授	大 塚 康 夫	17. 4. 1 ~ 21. 3.31
東北アジア研究センター教授	栗 林 均	20. 4. 1 ~ 22. 3.31
高等教育開発推進センター教授	静 谷 啓 樹	19. 1. 1 ~ 21. 3.31
原子分子材料科学高等研究機構准教授	竹 内 章	20. 4. 1 ~ (オブザーバー)

第55回国立大学図書館協会総会の開催について

標記会議が、6月26日(木)仙台国際センターを会場に、250名余の関係者が出席し、開催された。

今回は、東北地区が開催地区となり本学が会場となり開催したものである。

会 議

学 外

第39回国立大学図書館協会東北地区協会総会の開催について

標記会議が、4月24日(木)岩手大学を当番館として開催され、次の事項について協議が行われた。

- 1) 学生用図書経費の確保と選書方法について
- 2) 学生にとって魅力のある場としての施設
・設備の充実について
- 3) 電子ジャーナルの整備状況について
- 4) 機関リポジトリへの論文登録の促進について
- 5) 第55回国立大学図書館協会総会に向けての準備事項等について
・平成20年度地区選出の理事館候補館として東北大学を選出した。
- 6) 第55回国立大学図書館協会総会運営への協力要請について
- 7) 国立大学図書館協会東北地区協会理事
・当番館の確認について
・時期当番館について秋田大学で行うことを確認した。
各協議事項について活発な意見交換を行った。

学 内

20. 4.18 平成20年度第1回附属図書館運営会議

・協議事項

- 1) 附属図書館イメージ・キャラクターについて
- 2) その他

・報告事項

- 1) 平成20年度商議員について
- 2) 平成21年度概算要求について
- 3) 平成20年度総長裁量経費について
- 4) 井上プラン2007について
- 5) 第55回国立大学図書館協会総会について
- 6) その他
・委任経理金の受入について

・各分館からの報告

・図書館主催のオリエンテーション等について

20. 5.23 平成20年度第2回附属図書館運営会議

・協議事項

- 1) 平成20年度附属図書館年間計画について
- 2) 運営会議の当面の検討事項(案)について
- 3) 附属図書館の中期目標・中期計画(案)について
- 4) 平成20年度附属図書館関連委員会構成(案)について
- 5) 平成20年度附属図書館予算(案)について
- 6) 平成20年度附属図書館資料費配分(案)について
- 7) 附属図書館イメージ・キャラクターについて
- 8) その他

・報告事項

- 1) 諸会議について
・第39回国立大学図書館協会東北地区総会について
・国立大学図書館協会理事会について
・外国雑誌センタ館会議について
・目録システム地域講習会(図書コース, 雑誌コース)の開催について
- 2) 理系新分館について
- 3) 平成18年度遡及入力について
- 4) キャンパス間資料搬送サービスについて

20. 5.26 平成20年度第1回附属図書館商議会

・協議事項

- 1) 平成20年度附属図書館会議等年間計画について
- 2) 省議会の当面の検討事項(案)について
- 3) 中期目標・中期計画(案)について
- 4) 平成21年度概算要求について
- 5) 平成20年度総長裁量経費について

- 6) その他
- ・報告事項
 - 1) 各種委員会委員について
 - 2) 井上プラン2007について
 - 3) 諸会議について
 - ・第55回国立大学図書館協会総会
 - ・第39回国立大学図書館協会東北地区総会について
 - ・国立大学図書館協会理事会について
 - 4) 平成20年度附属図書館予算(案)について
 - 5) 平成20年度附属図書館資料費配分(案)について
 - 6) 理系新分館について
 - 7) 平成19年度遡及入力について
 - 8) キャンパス間資料搬送サービスについて
 - 9) 各分館からの報告について
 - 10) その他

人 事 異 動

平成20年6月30日現在

発令年月日	新 職	氏 名	旧 職	備 考
20. 4. 1	流体科学研究所事務長	山 越 隆 男	医学分館事務長	配置換
"	医学分館事務長(併)	吉 田 隆 幸	農学部・農学研究科事務長	"
"	情報管理課図書館専門員	日 出 弘	山形大学情報部学術情報チームリーダー	採 用
"	工学分館専門員	松 井 好 次	情報サービス課図書館専門員	配置換
"	情報サービス課図書館専門員	吉 川 和 幸	岩手大学情報メディア課主査	採 用
"	加齢医学研究所庶務係長	小野寺 金 巳	総務課庶務係長	配置換
"	総務課庶務係長	菊 地 茂 雄	歯学部・歯学研究科専門職員	"
"	" 会計係長	猪 股 正 彦	理学研究科附属原子核理学施設事務係長	"
"	" 情報企画係長	菅 原 透	情報サービス課閲覧第二係長	"
"	" 学術情報支援係長	横 山 美 佳	情報部情報基盤課学術情報支援係長	"
"	情報管理課図書情報係長	田 中 朱 美	医学分館運用係長	"
"	情報サービス課閲覧第一係長	佐 藤 初 美	総務課情報企画係長	"
"	" 閲覧第二係長	沼 田 幸 子	宮城教育大学附属図書館主幹付け 情報サービス専門職	採 用
"	" 相互利用係長	内ヶ崎 洋 一	宮城工業高等専門学校庶務課図書係長	"
"	医学分館運用係長	南 館 義 孝	情報サービス課閲覧第一係長	配置換
"	北青葉山分館管理係長	芳 賀 博	情報サービス課相互利用係長	"
"	宮城教育大学附属図書館主幹付け 情報サービス専門職	中 村 浩 子	工学分館管理係	採 用
"	総務課学術情報支援係	堀 野 正 太	工学分館整理・運用係	配置換
"	情報管理課雑誌情報係	小清水 裕 子	"	"
"	総務部総務課東京分室	西 濱 るり子	医学分館総務係主任	配置換
"	医学分館総務係総務主任	櫻 庭 延 子	磐梯青少年交流の家	採 用
"	" 整理係	菊 地 良 直	情報管理課雑誌情報係	配置換
"	北青葉山分館整理・運用係	佐々木 智 穂	情報部情報基盤課学術情報支援係	"
"	工学分館管理係	佐 藤 亜紀子		採 用
"	" 整理・運用係	勝 本 加奈子	農学分館図書係	配置換
"	" "	檜 原 啓 一		採 用
"	農学分館図書係	永 澤 恵 美	宮城教育大学附属図書館主幹付け 録専門職付け	"
"	金属材料研究所総務課図書係	小飯塚 猛	北青葉山分館整理・運用係	配置換
"	再雇用職員(総務課)	阿 部 佳 市		採 用
"	" (情報管理課)	菊 地 房 雄		"
"	"	佐々木 勝 義		"

発令年月日	新 職	氏 名	旧 職	備 考
20. 4. 1	再雇用職員	佐 藤 博 子		採 用
"	"	富 田 小満子		"
"	准職員（情報管理課受入係）	沼 田 正 子	准職員（情報サービス課相互利用係）	配置換
"	"（情報サービス課参考調査係）	須 田 洋 子	"（情報管理課受入係）	"
"	事務補佐員（情報管理課雑誌情報係）	斉 藤 由理香	事務補佐員（情報サービス課閲覧第二係）	"
"	"（情報サービス課閲覧第二係）	高 野 博 子	"（情報管理課雑誌情報係）	"
"	"（情報管理課図書情報係）	鈴 木 基 恵		採 用
"	"（情報サービス課閲覧第一係）	梅 村 妙		"
"	"（経済学部図書室）	今 野 美 帆		"
4. 30		及 川 優 子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一係）	任期満了
5. 1	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一係）	奥 本 佐知子		採 用
6. 1	"（法学部図書室）	及 川 優 子		"

編 集 後 記

木這子の編集委員会の主な仕事は、年4回発行の木這子の掲載記事（案）を検討することです。第1回目の委員会では木這子の題字の帯のカラーを検討する仕事もあります。今年の色はいかがですか。

いろいろなところで館報等の編集発行にかかわってきましたが、どこにおいても永遠の課題、それはこれらの刊行物の対象（読者）をどこにおくかということです。その様な課題も委員会で検討しています。

本学図書館は全国でも有数の図書館です。しかし、全ての要求に応えることは難しいことです。宮城県図書館、仙台市図書館、近隣の大学図書館等、電子ジャーナル、古書店のデータベースなど、調べてみると意外と効率的に図書や雑誌や情報に近づくことができることがよくあります。

皆さん、「相互利用」ってご存知ですか。本学や近隣図書館にない雑誌論文コピーや図書を取り寄せることができるサービスで、大学図書館ではもちろん、公共図書館でも行っている

サービスです。これでさらに情報に近づくことができます。是非活用してください。

本学図書館では、狩野文庫、漱石文庫や和算関係資料を始めとして、有名なコレクションを所蔵しています。それらの一部についてはインターネットで画像を公開したり、またマイクロフィルムを作成したりして利用者の要望に応えています。

この館報は東北大学附属図書館の情報を皆さんに届ける役割を果たしています。今後ともよろしく願います。

平成20年度広報委員会委員

委員長 加藤 信哉

高橋 信野 菊地 茂雄

藤澤こず江 内ヶ崎洋一

近藤真澄美 工藤 未来

柳原 幸子 永澤 恵美

横山 敏秋 注) 印は木這子編集委員

東北大学附属図書館報「木這子」 第33巻第1号（通巻122号）発行日 平成20年6月30日

発行人 北村 明久 広報委員会委員長 加藤 信哉

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 電話 022-795-5911, FAX 022-795-5909
URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>